

令和元年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ~うるおいのある豊かなまち~		
	施策	05 生きがい - 市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します -		
重点プロジェクト		" オールふじみ野 " まちづくりプロジェクト		
主管課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	浦谷 健二	
		評価日	令和2年5月22日	
関連課	学校教育課、社会教育課			
目標	夢が広がり、生涯を通して学び続ける環境づくりの推進に向けて、多様なニーズを踏まえた市民の生きがい学習への参加機会の創出と支援を行うとともに学んだ経験を地域に還元する仕組みを構築します。			
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 生きがい学習環境の整備・充実</p> <p>○市民大学ふじみ野をはじめとする様々な生きがい学習の環境整備を進めます。</p> <p>○各世代に応じた講座の開設など、市民のニーズに応じた学習メニューを充実させ、学習活動を支援します。</p> <p>(2) 生きがい学習の地域還元</p> <p>○市民大学ふじみ野の修了生や生きがい学習ボランティア人材登録制度などを活用し、学びの成果を地域に還元する仕組みを構築します。</p>			

2. 施策指標と達成状況

網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	生きがい学習受講生数					
		説明	生きがい学習まちづくり出前講座、子ども大学ふじみ野、生きがい学習ボランティア派遣による学習の参加者は、市民の生きがい学習を推進する指標となるため。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	360	380	410	440	470	500
		実績値	297	163				
	指標 2	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数					
		説明	市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数。受講後、学んだ経験を地域へ還元する指標となるため。(平成28年度からの実施事業。指標の数値は累計)					
		単位	回					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	20	30	45	60	80	100
		実績値	0	6				
	指標 3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数					
		説明	生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数。市民による生きがい学習の機会を創出する指標となるため。(平成27年度の一部制度を改正。指標の数値は平成27年度からの累計)					
		単位	回					
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値	7	10	15	20	25	30	
	実績値	4	2					
指標 4	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	5,994	6,238	6,466			
	人件費	12,712	12,367	12,367			
収入	特定財源	166	0	365			
	一般財源	18,540	18,605	18,468			

4. 評価対象年度の施策実施内容

網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組	子ども大学ふじみ野の開校	「共に生きる社会の理解」をテーマに実行委員会が企画し、7月27日(スポーツ障害、ドローン)、8月3日(まなびと遊びのキャンパス)、31日(プラネタリウム)の3日間開校した。	小学校4年生から6年生の26人(3日間参加者延べ71人)が参加し、学校では学ぶことのできない体験や学習を行った。	生きがい推進事業(一部)
取組	市民大学ふじみ野の開催	地域での学びの促進と人材育成を目標に、NPOとの協働により市民大学ふじみ野において講座を開催した。	レギュラー講座13回(参加者141人)、特別公開講座1回(参加者60人)、学び合い講座4回(参加者31人)を開催した。	市民大学ふじみ野運営事業
取組	生きがい学習ガイドブックの作成	前年度末より公民館団体等に呼び掛けを行ったり、ボランティアの登録を募ったりして生きがい学習ガイドブックに掲載する情報を集めて6月上旬に2,000部発行した。	ガイドブックを読んだ人からサークル活動に関する問合せが164件あったほか、まちづくり出前講座は28のメニューのうち4件が実施され、合計77人の参加があった。ボランティアについては4団体、21人の登録があり、2件派遣実績があった。	生きがい推進事業(一部)
取組				
取組				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	平成27年度に教育委員会から市長部局へ移管された本施策は、学校教育や社会教育を経て培われた市民の主体的な学びを支援する事業(生きがい推進事業)と整理している。
おおむね順調	特に、市長部局で実施する特色としてその運営手法を市民協働に求め、平成28年度に「市民大学ふじみ野」を立ち上げ、NPOへの業務委託により運営を行ってきた。
行政資源の活用	「市民大学ふじみ野」では、「市民の学び 地域の学び 知の好循環」をテーマに、学びを地域への活動に繋げ、地域での活躍のきっかけとなるような講座づくりを行ってきた。
おおむね適切	今後は修了生の地域還元を顕在化するために、講座受講者後の受け入れ先の整備などが課題となっている。
取組の有効性	
おおむね有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和元年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	生きがい推進事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト	"オールふじみ野"まちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ~うるおいのある豊かなまち~		
	施策	05 生きがい - 市民のみなんで学ぶ、地域で学ぶを推進します -		
予算費目	一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費			
所管部課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	村田 頼信	
事務事業期間	平成27年度~	評価日	令和2年4月1日	
個別計画 根拠法令・条例等	地方自治法等			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民が地域で生き生きと活気に溢れ、生きがいを持って暮らせるようなまちづくりを推進するため、必要とされる市民力や地域力の向上を図る諸事業を展開する。		
	事務事業の経緯	生涯学習分野については従来の教育部局にとられず、他の分野と有機的に連携した施策展開を行うため、平成27年度から市長部局に移管された。ふじみ野市で取り組む生涯学習推進体制を「生きがい学習」と称し、事務事業としての位置づけを行ったものである。		
	事務事業の概要	生きがい学習まちづくり出前講座：行政の取組み、情報発信の仕組みの一環として出前講座を提供 子ども大学ふじみ野：小学4~6年生を対象とし、学校で学べない専門的カリキュラムを提供 生きがい学習ボランティア登録制度：様々なボランティアを募るための登録制度を実施 生きがい学習ガイドブック：サークル等、学びの情報提供の一環として年1回情報誌を発行		
	令和元年度の主な取組	・「生きがい学習ガイドブック」の発行時期を約1か月早めた。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.40	0.55	0.55
		人件費	3,239	4,388	4,388
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	3,239	4,388	4,388	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	151	152	153	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	40	80	80	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	38	27	55	
	支出合計	3,468	4,647	4,676	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	3,468	4,647	4,676	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		30	41	40	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	生きがい学習受講生数		
	説明	出前講座、生きがい学習ボランティア派遣による学習、子ども大学の参加者数は、事業目的に対する関心度や効果を反映するものとして見なせ、市民の生きがい学習を推進する指標となるため。		
活動	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	260	380	410
	実績値	297	163	
指標 2	指標名	生きがい学習まちづくり出前講座の実施メニュー数		
	説明	出前講座の実施メニュー数は、情報発信の仕組みづくりや地域社会との情報交換の仕組みづくりの一環として事業目的の効果度が図れるため。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	35	35	35
	実績値	27	28	
指標 3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数		
	説明	生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数。市民による生きがい学習の機会を創出する指標となるため。（指標の数値は制度を一部改正した平成27年度からの累計）		
成果	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	7	10	15
	実績値	9	11	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>生きがい学習まちづくり出前講座：情報発信の仕組みの一環として出前講座を提供 メニュー数 28件、申請件数5件、実施件数4件、参加者数26人（3日間の延べ参加者は77人）</p> <p>子ども大学ふじみ野：小学4～6年生を対象とし、学校で学べない専門的カリキュラムを提供 「共に生きる社会の理解」というテーマの元、カリキュラムを構成。最終日にはプラネタリウムを体験し、宇宙と人間のつながりを学び、共生社会の重要性を説いた。参加者26人（3日間延べ参加者数は71人）</p> <p>生きがい学習ボランティア登録制度：ボランティア登録制度を実施 登録ボランティア数（団体 4団体、個人21人） ・派遣件数2件（申請数2件）、参加者数延べ 60人 ・市民大学ふじみ野「学び合い講座」にて、2人が講師として4講座を実施。参加者数延べ 31人</p> <p>生きがい学習ガイドブック：サークル等、情報提供の一環として情報誌を発行 2,000部を6月上旬に発行し、市内公共施設に配架。 掲載されているサークル・団体情報については、164件の仲介を行った。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	平成27年度から移管を受けた生涯学習分野の各事業は市民大学ふじみ野運営事業に整理・統合してきた。新文化施設の方向性や公民館の在り方等と連動しながら、当市の生涯学習事業（生きがい学習）の方向性を見直す段階にある。
中長期的方向性	
継続	

令和元年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民大学ふじみ野運営事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		"オールふじみ野"まちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ~うるおいのある豊かなまち~			
	施策	05 生きがい - 市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します -			
予算費目		一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費			
所管部課		市民活動推進部 協働推進課		評価責任者	村田 頼信
事務事業期間		平成28年度~		評価日	令和2年4月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務事業の内容	事務事業の目的	「市民の学び 地域の学び 知の好循環」を基本理念に、市民による市民のための学びの場を提供する。「市民」「地域」「市民大学ふじみ野」が連携を図り、有機的に結合することによって、地域の課題解決策の提案や実践していく人材育成を行い、もって「知の好循環」を目指す。			
	事務事業の経緯	平成28年度からの事業として、4年目を迎えた。年間を通じて16講座を展開した。			
	事務事業の概要	市民大学ふじみ野の運営主体は市であるが、市民のニーズを的確に把握し、迅速かつ柔軟性のある運営を推進するため、平成28年1月に設立された特定非営利活動法人ふじみ野みらいに講座等の企画運営や市民大学ふじみ野の事務局運営を委託形式により実施している。			
	令和元年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「前期/後期」と分けていたカリキュラム編成を「前期/中期/後期」と分けることで、広報の回数を増やした。 ・レギュラー講座：地域協働学校の枠組みの一環として、スタディサポーター（放課後の学習支援者）を育成する講座を元福小学校と連携し、地域還元につながるカリキュラムを実施。また、子育て支援講座では西児童センターを会場とした講座の開催を初めて試み、児童センター利用促進へも繋がった。 ・特別公開講座：既存の市民団体と共同で映画上映とパネルディスカッションを実施。市民大学として初めて環境問題に取り組んだ。 			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.52	0.55	0.55
		人件費	4,210	4,388	4,388
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		4,210	4,388	4,388	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	3,317	3,460	3,532	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	0	0	0	
支出合計		7,527	7,848	7,920	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	104	0	300
一般財源		7,423	7,848	7,620	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		65	69	66	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民大学ふじみ野講座数		
	説明	市民大学ふじみ野で実施されるコースの数（学び合い講座4講座、特別公開講座3講座含む）は、事業の目的に掲げる人材育成を充実させていく取り組みの指標として見なせるため。		
活動	単位	講座		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	10	23	25
	実績値	16	13	
指標 2	指標名	市民大学ふじみ野受講者数		
	説明	市民大学ふじみ野で実施する各種講座の受講者数は、事業目的に対する関心度や事業効果を反映するものとして見なせるため。平成30年度より特別公開講座及び学び合い講座の受講者数を追加。（平成29年度までは生きがい推進事業として実施）		
成果	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	250	300	350
	実績値	349	301	
指標 3	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数		
	説明	市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数。受講後、学んだ経験を地域へ還元する指標となるため。（平成28年度から実施している事業。指標の数値は累計）		
成果	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	0	30	45
	実績値	0	6	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>レギュラー講座：専門性の高い講座から人気の講座まで幅広いジャンルからテーマを選定する基本となる講座 前期：6講座 受講者：73人 中期：2講座 受講者：12人 後期：5講座 受講者：56人 平成30年度の開講講座から、参加者の見込める人気の講座に特化し、講座内容の充実に努めた。また、修了生の活躍の場を提供するため、新たな取り組みとしてスタディ・サポーター養成講座や資料館案内ボランティア養成講座を行った。</p> <p>特別公開講座（文京学院大学）：文京学院大学と連携し、2日間の公開講座を実施 1日目：「子どもといっしょに楽しむ易しい英会話」 受講者：25人 2日目：「子ども時期の精神障害と子育て」 受講者：44人 受講者合計 69人</p> <p>特別公開講座「環境問題について学ぶ～地球にやさしい循環農業～」：会場を講義室外に移し、多くの聴講生を募り市民大学の周知を目的として実施 映画「武蔵野～江戸の循環農業が息づく～」 パネルディスカッション「今こそ必要な持続可能な循環農業を考える」 受講者：60人</p> <p>学び合い講座：市民から講師を募り、市民どうしの学びの循環の仕組みを確立させた。 提案講座数5講座、実施講座数4講座、受講者数 31人</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携強化 ・人材育成と地域還元の道筋 上記二点を意識した講座の企画を基に、NPOとの協働（委託）事業として市民大学を運営していく。
中長期的方向性	
継続	

令和元年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		市民憩の森管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ~うらおいのある豊かなまち~			
	施策	05 生きがい - 市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します -			
予算費目		一般会計 02総務費 01総務管理費 11コミュニティ施設費			
所管部課		市民活動推進部 協働推進課		評価責任者	村田 頼信
事務事業期間		平成25年度~		評価日	令和2年4月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市市民憩の森条例 ふじみ野市市民憩の森条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民憩の森において、自然とのふれあいを通して、青少年の野外体験活動、地域コミュニティ及び異世代間の市民交流の推進を図る。			
	事務事業の経緯	・平成25年3月をもって土地返還した鶴ヶ岡青少年野外活動ひろばの代替施設として、聖路加国際病院が市内に所有する山林を「使用貸借契約」により借受け、「ふじみ野市市民憩の森」を平成25年7月1日（条例施行）に設置した（平成25年7月16日から供用開始）。			
	事務事業の概要	野外活動広場・レクリエーション広場の貸出し業務 施設の維持管理			
	令和元年度の主な取組	レクリエーション広場の利用者に対し、公共施設予約システムの利用について手引きを行った。 施設の運営と維持管理の手法について見直しを検討・実施。実行委員会による企画提案制度を廃し、またシルバー人材センターとの管理の範囲の見直しを行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.65	0.45	0.45
		人件費	5,263	3,591	3,591
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		5,263	3,591	3,591	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	255	278	331	
	委託料	2,178	2,240	2,297	
	使用料及び賃借料	7	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	9	1	18		
支出合計		7,711	6,110	6,237	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	62	0	65
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		7,649	6,110	6,172	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		67	53	53	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民憩の森利用登録団体数		
	説明	施設の利用登録団体数を基礎指標とみなし、活動指標として設定する。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	80	80	80
	実績値	74	92	
指標 2	指標名	市民憩の森開場日数		
	説明	ふじみ野市市民憩の森条例に基づき、安全で適正に開館した日数を活動指標として設定。		
活動	単位	0		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	343	344	344
	実績値	333	305	
指標 3	指標名	市民憩の森利用者数		
	説明	施設の利用数を基礎指標と見なし、成果指標として設定する。		
成果	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	100,000	110,000	110,000
	実績値	9,855	9,616	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>窓口にて通常の受付事務と、大井総合支所における公共施設予約システムの利用が困難な高齢者向けの出張受付を行った。このとき、高齢者の希望者に対して公共施設予約システムの使い方について手引きを行った。システムを利用した方からは「思ったより簡単に予約ができて良かった。」などの声をいただき、段階的にシステムによる申し込みへの浸透度が測れた。</p> <p>施設内の樹木の高齢化により、折れ枝・枯れ枝の発生を把握し、剪定を迅速に実施した。従来からある利活用に係る企画運営のための実行委員会制度を廃し、加えて施設管理受託者であるシルバー人材センターと管理内容の見直しを重点的に行った。これにより、市民の安全確保と予算の有効投資を優先事項とする施設管理の方向づけが明確になった。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	・施設の維持管理について、安全確保を最優先事項とし、効率的予算執行に注力する体制とする。
中長期的方向性	
継続	